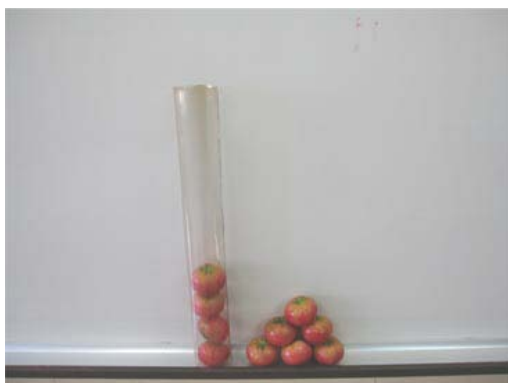


教材教具名 10まで数え筒

教科 (算数)

教材教具写真



教材教具の概略 (ねらいと使い方) ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい : 5まで・10までの数唱に興味をもち、楽しむことができる。
・筒の中の模型が縦に積み重なっていくのを見ることで、数が増えることを視覚的に捉える。
- 2 発達段階 : 感覚を通して外界とのかかわりを広げる時期
操作することを通して数や量を認識する時期
- 3 使い方 : ①透明な筒にトマトやみかんなどの模型が入っていくのを見ながら、「1, 2, 3, 4, 5」と5まで・10までの数唱を聞く。
②教師の「1, 2, 3, ……」の数唱に合わせてながら、1つずつ自分で筒に模型を入れていく。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等 (次に利用する方のために)

児童の数唱への興味が深い時期に使用し始めたこともあり、トマト等の模型が多くなっていく様子を楽しそうによく見ながら学習することができた。

自分で模型を入れるときは数唱を意識しながら入れており、5まではスムーズに入れられるが6, 7, 辺りになると少しずつ中だるみが見え始め、5と比較した数の多さを体で感じていた。学習を繰り返すうちに10までの区切りをおおむね理解し、9個目を入れるときは「次は10だ」という期待をもって喜びを表す児童もいた。また、友達がする様子も楽しみながらよく見ていた。

バギーを使用して筒の口が高すぎる児童には、筒を斜めにして入れるようにした。自分で入れて数が増える様子を見ることができなかつたのがやや難点である。